

授業科目名	編集コミュニケーション論	単位数	2
担当教員名	山口 道宏	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ (1) 身近なコミュニケーションとしての「編集」への関心を高める。 (2) 具体的に「編集」の方法と内容、さらに効果について、実践を通し理解する。 (3) (2)に準じ、「編集」の実際を、媒体別に比較検討することから、それらがもつコミュニケーションの有用性を説明できる。</p>			
<p>授業の概要 「料理は編集だ」といわれる。よって身近な「料理」にたとえるなかで、上記のコミュニケーションとしての編集の方法と内容、効果についてを導入とする。また、先行研究の紹介から編集の理論と方法、編集の要件、編集の可能性を。さらに事例の紹介からは比較検討を試みる。なお実践演習では実際に「編集者になる！」を体験する。本科目では主に出版メディアをとり上げる。 単に「切ったり貼ったり」という編集へのイメージを超えて、人間がもつ編集という行為の意味と役割について講じる。編集の入口から編集の出口までを、日常生活に置き換え、情報、記憶、再生などに遡り、その面白さを認識する。また演習では、実際に出版メディアを例に、基本的編集技法の理論と行程を体験する。</p>			
<p>授業計画 第1回：序 「料理は編集だ」 第2回：編集力と連想ゲーム 第3回：情報はつながっている 第4回：脳という編集装置 第5回：分節する情報 第6回：記憶と再生 第7回：情報社会と編集技術 第8回：編集空間 第9回：情報の舞台 第10回：編集工学 第11回：「64編集技法」から 第12回：編集の創発性、他のメディアにおける編集とは 第13回：実践演習 「編集者になる」① 企画立案から企画会議まで 企画書作成 第14回：実践演習 「編集者になる」② 取材・調査、原稿整理、編集・デザイン 第15回 発表と講評 総括・編集コミュニケーション論 定期試験</p>			

スクーリングでの学修内容

第1回から第15回全てを行う。

テキスト

(1) 松岡 正剛 (2001) 『知の編集工学』朝日文庫

参考書・参考資料等

(1) 松岡 正剛 (2000) 『知の編集術』講談社現代新書

その他適宜紹介する。また関係する資料をスクーリング時に配布する。

学生に対する評価

スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する。